

JAPIO

(c) 2005 JPO & JAPIO. All rights reserved.

04055055 **Image available**

IMAGE PROCESSOR

Pub. No.: 05-046755 [JP 5046755 A]

Published: February 26, 1993 (19930226)

Inventor: KAMIYAMA TADANOBU

Applicant: TOSHIBA CORP [000307] (A Japanese Company or Corporation), JP (Japan)

Application No.: 03-205948 [JP 91205948]

Filed: August 16, 1991 (19910816)

International Class: [5] G06F-015/66; G06F-003/153; G06F-015/66; G09G-005/02; G09G-005/36; H04N-001/387; H04N-001/40; H04N-001/46

JAPIO Class: 45.4 (INFORMATION PROCESSING -- Computer Applications); 44.7 (COMMUNICATION -- Facsimile); 44.9 (COMMUNICATION -- Other); 45.3 (INFORMATION PROCESSING -- Input Output Units)

Journal: Section: P, Section No. 1567, Vol. 17, No. 354, Pg. 14, July 05, 1993 (19930705)

ABSTRACT

PURPOSE: To scale a multi-color image also with high picture quality by temporarily converting the multi-color image into a three-stimulus value display color system, executing the scaling and picture element density conversion based upon interpolating operation to the converted image and then executing the backward conversion.

CONSTITUTION: A central control means 1 converts a stored multi-color image into a three-stimulus value display color system by a three-stimulus value converting means 2, applies the expanding/contracting/picture element density converting processing based upon interpolating processing to the converted image by a picture element density interpolating processing converting means 4 and then executes the backward conversion the processed image by a three-stimulus value reverse conversion means 3 to obtain a processed image. The means 2 converts the multi-color image expressed by a non-linear display system into the three-stimulus value display color system to be a linear color display system. The means 3 reversely converts the processed image expressed by the three-stimulus value display color system into the original non-linear display color system. The means 4 applies processing conversion such as expanding/contracting/picture element density conversion to the multi-color image.

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-46755

(43)公開日 平成5年(1993)6月22日

(51)Int.Cl.⁵

B 6 5 D 43/06

識別記号

庁内整理番号

6540-3E

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数3(全 2 頁)

(21)出願番号 実願平3-104586

(22)出願日 平成3年(1991)11月25日

(71)出願人 591284210

サンテック株式会社

愛知県名古屋市守山区瀬古字高坪116番地の1

(71)出願人 591284221

神谷 宏明

愛知県春日井市花長町2丁目18番地の9

(71)出願人 591284232

奥平 幸夫

岐阜県多治見市小名田町小滝5番地の109

(74)代理人 弁理士 名嶋 明郎 (外2名)

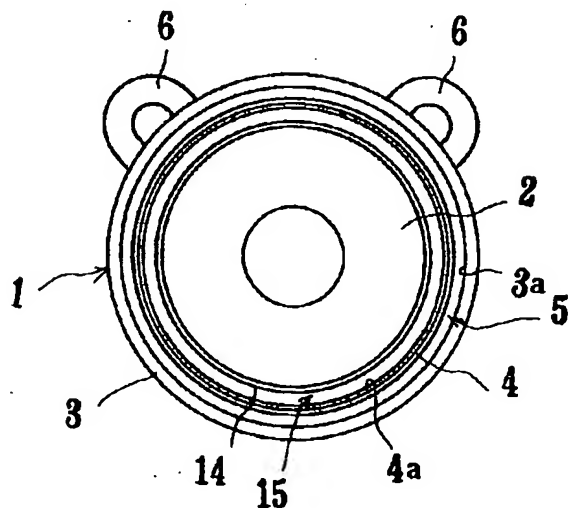
最終頁に続く

(54)【考案の名称】 開封缶の密閉蓋

(57)【要約】

【目的】 一旦開封された缶入り飲料の飲み残しを衛生的に保存するうえで便利な安価な開封缶の密閉蓋を提供すること。

【構成】 プラスチック材よりなる浅キャップ状の蓋主体1の天板部2の裏面にその周枠部3より脚端が突出することのない大小の環状脚4、14を設けて外側の環状脚4と周枠部3との間を大型缶用の巻締部嵌合溝5に形成するとともに、内側の環状脚14と外側の環状脚との間を小型缶用の巻締部嵌合溝15に形成してあるもの。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 天板部(2)の周縁に低い周枠部(3)を続かせたプラスチック材よりなる浅キャップ状の蓋主体(1)の該天板部(2)の裏面に脚端が前記周枠部(3)より突出することのない大小の環状脚(4)、(14)を外側の環状脚(4)と周枠部(3)との間に大型缶用の巻締部嵌合溝(5)が形成され両環状脚(4)、(14)間に小型缶用の巻締部嵌合溝(15)が形成されるように連設してあることを特徴とする開封缶の密閉蓋。

【請求項2】 周枠部(3)と外側の環状脚(4)の内面が縮径方向へのテーパ面(3a)、(4a)に形成されている請求項1に記載の開封缶の密閉蓋。

【請求項3】 蓋主体(1)の外周面下方部に略半環状の突片(6)が適当数形成されている請求項1または2に記載*

*の開封缶の密閉蓋。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の実施例を示す底面図である。

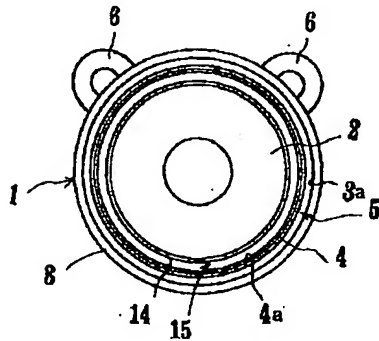
【図2】 本考案の実施例を示す一部切欠正面図である。

【図3】 本考案の実施例を示す要部の断面図である。

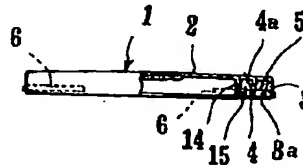
【符号の簡単な説明】

- 1 蓋主体
- 2 天板部
- 3 周枠部
- 4 外側の環状脚
- 5 大型缶用の巻締部嵌合溝
- 6 略半環状の突片
- 14 内側の環状脚
- 15 小型缶用の巻締部嵌合溝

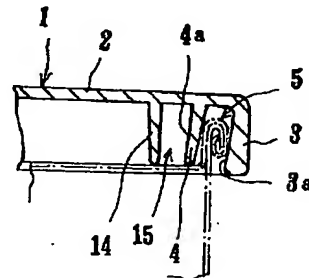
【図1】



【図2】



【図3】



フロントページの続き

(72)考案者 中村 靖治

愛知県名古屋市守山区瀬古字高坪116番地
の1 サンテック株式会社内

(72)考案者 神谷 宏明

愛知県春日井市花長町2丁目18番地の9

(72)考案者 奥平 幸夫

岐阜県多治見市小名田町小滝5番地の109

【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本考案は、一旦開封された缶入り飲料の飲み残しを衛生的に保存するうえで便利な開封缶の密閉蓋に関するものである。

【0002】

【従来技術】

最近では破損しやすい瓶入り飲料に代わってアルミ缶やブリキ缶などに詰められた缶入り飲料が広く普及されてきたが、一旦開封された缶入り飲料の飲み残しを衛生的に保存するための工夫がなされていないために缶入り飲料は多くの無駄が生じるという問題が残されている。

【0003】

【考案が解決しようとする課題】

本考案は上記のような従来の問題点を解決して、一旦開封された缶入り飲料の飲み残しを衛生的に保存することができ、しかも、缶入りビールのような比較的大型の飲料缶と、缶入りジュースのような比較的小型の飲料缶の双方に対して1種のもので適用できる便利な開封缶の密閉蓋を提供しようとするにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】

上記の課題を解決するためになされた本考案に係る開封缶の密閉蓋は、天板部の周縁に低い周枠部を続かせたプラスチック材よりなる浅キャップ状の蓋主体の該天板部の裏面に脚端が前記周枠部より突出することのない大小の環状脚を外側の環状脚と周枠部との間に大型缶用の巻締部嵌合溝が形成され両環状脚間に小型缶用の巻締部嵌合溝が形成されるように連設してあることを特徴とするものである。

【0005】

【作用】

このように構成された開封缶の密閉蓋は、常時は冷蔵庫の周辺や食卓周辺などに保管しておき、缶入りビールのような比較的大型の飲料缶を開缶してその飲料

の一部が残されたときは、外側の環状脚と周枠部との間に形成されている大型缶用の巻締部嵌合溝の開口端を大型缶の缶端の巻締部に当てがい押圧し開缶された缶の端部に嵌合させて蓋主体で密閉状態とし、また、缶入りジュースのような比較的小型の飲料缶を開缶してその飲料の一部が残されたときは、大小2個の環状脚間に形成された小型缶用の巻締部嵌合溝を大型缶の缶端の巻締部に当てがい押圧し開缶された缶の端部に嵌合させて蓋主体で密閉状態として保管すればよい。

【0006】

【実施例】

次に、本考案を図示の実施例について詳細に説明する。

図中1は硬質または中硬質のポリエチレン樹脂その他人体に無毒で所要の弾性を有するプラスチック材よりなる蓋主体であって、該蓋主体1は肉厚約1、5ミリ、外径約80ミリの天板部2の周縁に高さ約6ミリ程度の低い周枠部3を一体に垂設するとともに、天板部2の裏面に脚端が前記周枠部3より突出することのない肉厚1ミリ程度の環状脚4を該周枠部3と環状脚4との間に2、5ミリ幅程度の大型缶用の巻締部嵌合溝5が残され且つその内側にも脚端が前記周枠部3より突出することのない肉厚1ミリ程度の環状脚14を前記外側の環状脚4との間に2、5ミリ幅程度の小型缶用の巻締部嵌合溝15が残されるように一体に垂設してある。

【0007】

なお、周枠部3と外側の環状脚4の内面は縮径方向へのテーパ面3aとテーパ面4aとに形成されており、また、蓋主体1の周枠部3の外周下方部より水平方向に略半環状の突片6、6が円形の蓋主体1を動物の顔としたとき耳位置に相当するように2個張設けられている。

【0008】

このように構成されたものは、常時は冷蔵庫の周辺や食卓周辺などに設けておいたフックに略半環状の突片6をもって掛吊しておいたり引き出し中に入れて保管しておき、缶入りビールのような比較的大型の飲料缶を開缶してその飲料の一部が残されたときに取り出して外側の環状脚4と周枠部3との間に形成されている大型缶用の巻締部嵌合溝5の開口端を大型缶の缶端の巻締部に当てがってこれ

を押圧すれば、開缶された大型缶の端部に蓋主体1はプラスチック材の適度な弾性のもとに巻締部嵌合溝5に巻締部が的確に嵌合された状態で施蓋されて開口は密閉され、また、缶入りジュースのような比較的小型の飲料缶を開缶してその飲料の一部が残されたときは、大小2個の環状脚4と環状脚14間に形成された小型缶用の巻締部嵌合溝15を小型缶の缶端の巻締部に当てがって押圧すれば、開缶された小型缶の端部には蓋主体1がプラスチック材の適度な弾性のもとに巻締部嵌合溝5に巻締部が的確に嵌合された状態で施蓋されて開口は密閉されることとなるから、この施蓋状態で保管すれば極めて衛生的で且つ液漏れなく保管できることとなる。しかも、蓋主体1はプラスチック材よりなるものであるうえに周枠部3と大小の環状脚4と環状脚14により保形されているので、強度的にも優れており洗浄して反復使用できるものである。なお、実施例では環状脚を2個設けて巻締部嵌合溝を2個形成しているが、内側の環状脚の内側にさらにもう一つ環状脚を付加して巻締部嵌合溝を3個としてもよい。

【0009】

また、周枠部3と外側の環状脚4の内面が縮径方向へのテーパ面3a、4aに形成しておけば、プラスチック材の弾性によりよりの確な密閉が可能となり、さらに蓋主体1の周枠部外面に略半環状の突片6を形成しておけば、掛吊り状態で保管できるばかりでなく開蓋時の摘みとなって便利である。

【0010】

【考案の効果】

以上の説明からも明らかなように本考案によれば、一旦開封された缶入り飲料の飲み残しを衛生的に保存することができ、しかも、缶入りビールのような比較的大型の飲料缶と、缶入りジュースのような比較的小型の飲料缶の双方に対して1種のもので適用できるものであり、また、蓋主体をプラスチック材よりなるものとしてその下面に周枠部と複数の環状脚を設けて強度を増しているので洗浄が容易で反復使用できるなど多くの利点がある。

従って、本考案は一旦開封された缶入り飲料の飲み残しを衛生的に保存するうえで便利な開封缶の密閉蓋として構造が簡単なため安価に提供できる利点と相俟ち実用的価値は極めて大きいものである。